

自由論題 1「東南アジアの経済」・報告 1

報告テーマ

タイの経済発展と産業集積

氏名(所属)

西野 友浩(神戸大学・院)

要旨(800字程度)

グローバルサプライチェーンの深化により域内外の貿易自由化が進展した結果、東アジア域内では主に日本や中国の有力グローバル企業主導による東アジア国際分業体制が緊密化している。

貿易自由化や国際分業体制の緊密化は、企業内分業や企業間分業による効率的な生産工程、サプライチェーン短縮を目的とした深みのある産業集積を形成する。産業集積の深化は、ロックイン効果により更なる海外直接投資を促す。また、多様な企業による海外直接投資は、「現地法人の親企業が持つ先進的な技術やマネジメント」を親会社から集積地に新設される現地法人へ、現地法人との取引を通じて現地企業に移転させる。さらに、現地企業の先進技術の実装や先駆的マネジメントスタイルの体化は、生産効率の向上や労働力の熟練化を促進し、更なる創意工夫への意欲を高める。そして、創造性を高める will や skill は、「イノベーション」を生み出す素地となる。

タイには東南アジアで最も垂直的産業構造の厚みを持つ産業特化と企業独占による産業集積が建設されてきた。しかしながら、「中所得国の罫」の脱却には産業構造の多様化と競争原理の導入が課題とされている。また、タイはリスクヘッジを目的とする「チャイナプラスワン」だけではなく、CLMV での工程間分業を目的とした「タイプラスワン」の動きが活発化し、労働集約的な部分をフラグメントする産業集積が形成されつつある。

そこで、本研究は中進国からの脱却の焦点となるタイの製造業に着目し、資本と労働だけでは説明できない成長の残差、すなわち「産業の多様性、競争が生み出す効果」を県レベルの単年度データを用いて推計するとともに、「中進国の産業の多様化や競争は、先進技術と移転とマネジメントの移転を促し、付加価値や生産性を向上させる」、といった仮説をバンコク首都圏の時系列データを用いて検証する。なお、タイの産業集積(産業高度化)と生産性に関する実証研究はこれからと考える。また、国家統計局の公表データ等を用いた上述の分析は見当たらない

以上